

発掘だより

第27号

2007.1



ちょっと寄ってみませんか？

——三好氏ゆかりの散歩道・板野町編3——

～赤沢信濃守をまつる寺・愛染院～



天正10(1582)年の中富川の戦いで、壮絶なうち死にとげたとされる赤沢信濃守(あかざわしなののかみ)。その信濃守が、多くの将兵とともにまつられているのが、板野町那東にある愛染院(あいせんいん)です。



愛染院は、地元では那東の「お不動さん」と呼ばれて親しまれています。もとは「阿弥陀(あみだ)寺」という名前だったそうで、1184年、源義経が屋島を攻めたときにも、ここの不動明王にお祈りをしたといわれています。

赤沢信濃守もこの寺を大切にしていたのですが、天正10年(1582)、土佐の長宗我部元親が攻めてきたときに焼けてしまいました。その後再建されて、現在の「金雞山(きんけいざん)愛染院」という名前になったそうです。



わらじと赤沢信濃守



←山門の両側には大きなわらじが掛けられています。



→板野町の史せきに指定されている赤沢信濃守の廟所(びょうしょ)です。ここにも大きなわらじが・・・。

わらじがたくさん納められているのは、足の弱い人、リウマチや神経痛で足こしに病気になる人は、わらじを納めてお願いすればご利やくがあると伝えられていて、たくさんの方がお参りしているためです。

その始まりにはいくつかの説があって、その①中富川の合戦の時に、敵の流れ矢を足に受け歩けなくなった信濃守が、死ぬまぎわに「われを信こうする者には足の病を取りのぞくであろう」と言い残したという話があって、その話を聞いた人がお参りする時に納めたという説、その②戦場でわらじのひもが切れたために命を落とした信濃守に対して、病気が治ったお礼にわらじを納めて帰るようになったという説などが知られています。



← 掛け軸に描かれた赤沢信濃守(愛染院蔵)

↓ 赤沢家代々の供養塔



信濃守の廟(びょう)の横にある赤沢代々の供養塔で、「正治二年九月十五日」と刻まれています。正治(しょうじ)2年は西れき1200年です。



板西城将兵の墓

愛染院の裏山には、こけむした赤沢氏一族のお墓がたくさん並んでいます。これは明治の初め頃、愛染院の当時の住職さんが、付近で多く見られる石塔やお墓を集めて並べたものといわれています。

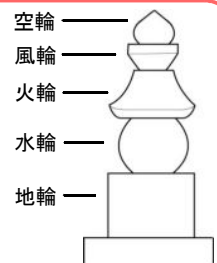
石を積み重ねたお墓の多くは、5つの石を重ねた「五輪塔(ごりんとう)」と呼ばれるものですが、中には1個の石から五輪塔の形を彫り出したものや、一枚の板石に五輪塔の形を浮き彫りにしたものもみられます。



板西城将兵の墓(板野町史せき)

五輪塔(ごりんとう)とは？

五輪塔の5つの石は、上から空輪(くうりん)、風輪(ふうりん)、火輪(かりん)、水輪(すいりん)、地輪(ちりん)と呼ばれ、宇宙をつくっている5つの要素を表しています。すべての生き物の心と体は、亡くなるとこの5つの要素に帰るという考えにもとづいていて、亡くなった人のたましいをなぐさめたり、今の世の罪や悪運を取りのぞき、わざわざいをさけるといわれています。鎌倉時代以降、室町時代、江戸時代を通じて、たくさんの五輪塔が建てられました。



五輪塔

K. Suzuki

発掘現場ニュース



かわらや土器の破へんがたくさん入っていて、燃やされた跡のある穴です。何をした跡なのか、今調べているところです。



館跡第12次発掘調査も、あと少しで終わりです。たくさんの遺構が見つかっていて、生活の場としてよく使われていたことがわかってきました。まだまだよくわからない遺構もありますが、毎日なやみながら調査しています。

問い合わせ先

藍住町教育委員会 社会教育課
勝瑞発掘現場事務所

TEL・FAX (088)641-3466

URL : <http://www15.ocn.ne.jp/~shouzui/>

E-mail : syugomachishouzui@air.ocn.ne.jp

